

# グローバル・バランス21（毎月分配型） （愛称：満天の星）

追加型株式投資信託／派生商品型

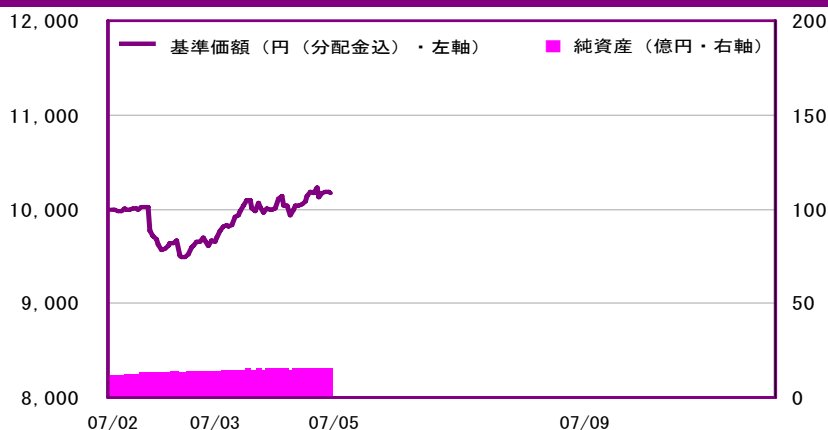
2007年5月31日現在

## 運用概況

|       |          |
|-------|----------|
| 基準価額  | 10,177 円 |
| 純資産総額 | 15.48 億円 |

| 期間騰落率 |       | 分配金の推移  |   |
|-------|-------|---------|---|
| 1ヶ月   | 1.81% | 2007/07 | 円 |
| 3ヶ月   | 4.17% | —       | 円 |
| 6ヶ月   | — %   | —       | 円 |
| 1年    | — %   | —       | 円 |

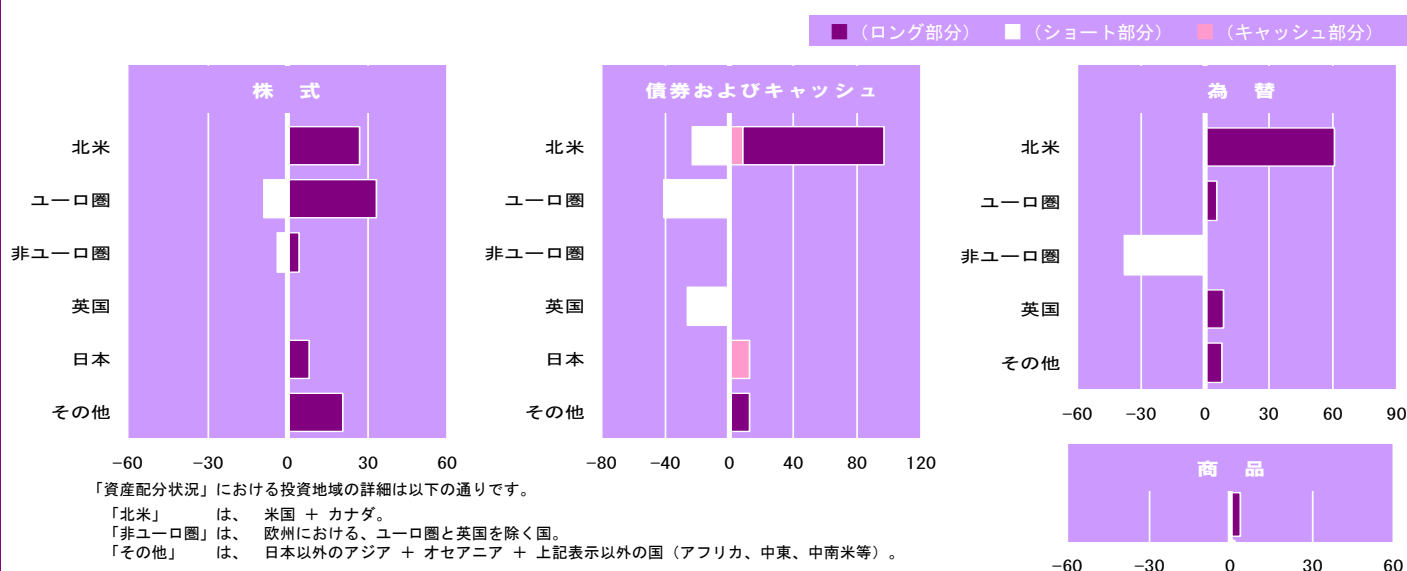
設定来 + 1.77 %  
設定来累計 — 円



・上記の基準価額推移ならびに期間騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しております。  
・基準価額推移において、信託報酬は控除されております。  
・騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

■信託設定日 2007年2月7日 ■信託期間 平成28年12月20日まで  
■決算日 毎月20日（休業日の場合は翌営業日）  
なお、初回決算日は平成19年7月20日です。

## 資産配分状況



当ファンドは、国内外の株式、債券、通貨およびこれらに関する派生商品（商品市況にリンクする債券およびファンドを含みます）に投資しますので、基準価額は大幅に変動することがあります。投資信託はリスクを含む商品であり、元本が保証されているものではありません。市場環境等により変動する投資信託の運用にともなう損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。この資料は運用の状況を説明する為のものであり、勧誘を目的とするものではありません。当資料は証券取引法に基づく開示資料ではありません。



# グローバル・バランス21（毎月分配型） （愛称：満天の星）

追加型株式投資信託／派生商品型

2007年5月31日現在

## 投資環境

- 株式：**国内株式市場は、06年度企業業績がほぼ出揃い、ここ数年同じパターンで予想通り上方修正の結果となりました。また、5月発表の国内経済指標はまちまちでしたが、海外株式との比較でやや修正されTOPIXが3.2%上昇しました。米国株式は、住宅関連指標に不安が残るものの、企業業績は当初予想を大幅に上回り好調でした。また、インフレ指標が落ちていることが安心感となり、ダウ、S&P500は史上最高値を更新しました。欧州株式はドイツが好調で、5月経済景況感指数は6ヶ月連続の上昇、活発なM&Aを背景に上昇基調を継続しました。
- 債券：**国内債券市場は、完全失業率の改善、企業物価指数、企業向けサービス価格指数が上昇基調にあることから早期利上げ観測が浮上し、国内債利回りは月末にかけて10年債で1.7%台へ上昇しました。米国債券は、利下げに対する期待感が後退し、10年債利回りは月末にかけ4.9%近くまで上昇しました。欧州債券は、設備投資が好調なドイツが、1-3月期GDPの好調を持続し、利上げ観測が広がって、利回りは上昇しました。
- 為替：**前月までのユーロ高進行に一服感が見られ、レンジは小幅ながらも、円、ユーロに対してドル高が進行する展開となりました。
- 商品：**イラン問題を中心とした中東、およびナイジェリアの内戦などの地政学リスクに加えて米国の製油所障害によるガソリン在庫の減少を受けてWTI（NY原油）は65ドル/バレル付近で高止まりました。金価格は、ドルが対ユーロで堅調に推移していたことから軟調な動きとなりました。

## 投資行動と運用成果

グローバル株式は、調整局面を脱したとの判断で、純資産に対しネットベースで73%程度の買いポジションとしました。配分は、欧州＝北米＞その他＞日本とし、フランス大統領選の結果から、出遅れ感があるフランス株式指数を組み入れました。また、香港H株式指数の組み入れを新たに開始しました。

グローバル債券は、純資産の76%程度、北米中心の国債を組み入れております。引き続きインフレリスクが高いドイツ国債を売り持ちとし、米国債買い／カナダ国債売りの金利裁定ポジションをとりました。

為替は、ニュージーランドドルの買いポジションを利食い、新たに、カナダドル、米ドル、豪ドル買い／スイスフラン、円売りのポジションといたしました。

上記投資行動の結果、株式、為替のプラス寄与で、基準価格は前月比181円の上昇となりました。

## 今後の見通しと投資方針

- ① グローバル株式は、バリュエーションから買いポジション継続の方向ですが、アジアの割合を増加方向といたします。
- ② 為替は資源国通貨買い、低金利通貨売りを基本といたします。

**日本：**年後半には米国景気回復を受けて景気の踊り場を脱却と見ています。したがって国内株式は、緩やかに上昇と判断しています。政策金利は、年後半にわずかながらインフレになってくることから年内に0.25%引き上げと判断しています。

**米国：**FOMCのコメント、好調な企業業績を背景に景気は緩やかに拡大基調と判断しています。

**欧州：**ECB（欧州中央銀行）は、6月、9月に追加利上げを行うと判断しています。

**商品：**欧州経済の好調、中国などの新興国も高水準の経済成長が続き、需要は継続して高水準と見ています。原油自体は余剰気味ですが、精製の問題でガソリンは不足状態が続き、WTI（NY原油）は\$60±\$10のレンジと判断しています。

当ファンドは、国内外の株式、債券、通貨およびこれらに関する派生商品（商品市況にリンクする債券およびファンドを含みます）に投資しますので、基準価額は大幅に変動することがあります。投資信託はリスクを含む商品であり、元本が保証されているものではありません。市場環境等により変動する投資信託の運用にともなう損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。この資料は運用の状況を説明する為のものであり、勧誘を目的とするものではありません。当資料は証券取引法に基づく開示資料ではありません。